

事務事業評価表（令和4年度の実績評価）

事務事業名		青少年相談員運営事業		事業区分		担当	
				新規/継続	継続	事務事業No.	020303000655
政策体系上の位置付け				単独/補助	単独	所属課	090601
政策	総合計画の施策名	0203	青少年の健全育成				生涯学習課
体系	政策名	02	生きがいを育む学びのまちづくり			課長名	
	施策名	03	青少年の健全育成			グループ	生涯学習G
	手段名	03	③地域教育力の充実			担当者名	
財務会計上の位置付け				事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計
	01	10	05	05	01	00	青少年対策事業
				単年度繰返し (平成17年度～)			
				☞ 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			
法令根拠	桜川市青少年相談員設置要綱、桜川市茨城県青少年の健全育成に関する条例の施行に関する規則						

(1) 事務事業の概要

手 段	①事務事業の概要（事務事業の全体像） 地域における青少年対策推進の中核として活動するため、昭和38年5月に青少年相談員が設置された。現在は市町村ごとに青少年相談員設置規則等を制定し、目的や人員、任務等を定めている。また、令和4年時点で県内に2,141名の青少年相談員が設置されており、青少年の実態把握、青少年への声かけ・相談、県条例の普及啓発、社会環境浄化活動を実施している。 市では、相談員の資質向上のために「茨城県青少年の健全育成等に関する条例」についての研修会や、学警連主催の夏祭り等の街頭指導、有害図書等自動販売機の立入調査、また市民会議と連携して「あいさつ・声かけ運動」を行っている。	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順 5月：総会・青少年相談員委嘱（任期は2年） 7月：青少年健全育成に協力する店の訪問、新規店舗登録 夏祭り街頭指導（学警連） 8月：納涼大会街頭指導（学警連） 10月：県第8ブロック役員会及び県研修会参加 11月：あいさつ・声かけ運動（市民会議） 12月：第8ブロック役員会・研修大会 1月：はたちの集い巡視活動 2月：自動販売機立入調査 市内中学校・義務教育学校下校指導（3校毎）
--------	---	--

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
・役員会、総会関係日時調整及び通知発送 ・青少年相談員委嘱事務 ・青少年健全育成に協力する店の訪問日程調整 ・視察研修会に伴う企画事務 ・有害図書等自動販売機の立入調査事務 ・会計出納簿の管理	青少年の健全育成に協力する店舗訪問数	件	109.00	99.00	100.00	100.00	100.00
	街頭指導回数(夏祭り、下校指導等)	回	0.00	5.00	5.00	5.00	5.00
	研修会	回	1.00	2.00	2.00	2.00	2.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	03年度 (実績)	04年度 (実績)	05年度 (計画)	06年度 (目標)	07年度 (目標)
青少年(住民基本台帳に基づく18歳未満)	市内青少年人数	人	5,237.00	4,715.00	5,000.00	5,000.00	5,000.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	03年度 (実績)	04年度 (実績)	05年度 (計画)	06年度 (目標)	07年度 (目標)
青少年の健全育成と非行防止の推進を図ることにより、豊かな心・生きがいをもった青少年になる。	店舗訪問活動に参加した相談員数	人	14.00	10.00	15.00	15.00	15.00
	街頭指導等に参加した相談員数	人	0.00	125.00	130.00	130.00	130.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量（事業費）の推移				03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	期間限定 総投入量
				(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0		
			県支出金	千円	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0		
			使用料・手数料	千円	0	0	0		
			その他	千円	0	0	0		
			一般財源	千円	266	641	641		
		事業費計（A）	千円	266	641	641			
	量	正規職員従事人数	人	2.00人	2.00人	2.00人			

事業費の内訳	04年度事業費 実績 (千円)				05年度事業費 予算 (千円)			
	07 報償費	600			07 報償費	600		
	10 需用費	14			10 需用費	14		
	13 使用料及び賃借料	10			13 使用料及び賃借料	10		
	18 負担金補助及び交付金	17			18 負担金補助及び交付金	17		
			合 計	641			合 計	641

	05年度の事業内容	06年度の事業内容	07年度の事業内容
(4) 当該年度の実施内容 ※年度ごとに事業内容を記入する	総会・役員会の開催 青少年健全育成に協力する店の訪問や視察研修、下校指導等の活動を実施	総会・役員会の開催 青少年健全育成に協力する店の訪問や視察研修、下校指導等の活動を実施	総会・役員会の開催 青少年健全育成に協力する店の訪問や視察研修、下校指導等の活動を実施

事務事業名	青少年相談員運営事業	事務事業No.	20303000655	所属課	生涯学習課
(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
地域における青少年対策推進の中核として活動するため、昭和38年に青少年相談員制度が設置された。その後、昭和56年に青少年(5～19歳)200人に1人の基準が設けられたが、設置基準は平成12年に廃止となった。現在は茨城県青少年健全育成等に関する条例及び桜川市青少年相談員設置規則に基づき活動している。					
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
平成27年度より巡回及び下校指導を各中学校の通学路で実施している。中学生の下校の様子が伺えたりするため非行防止につながり相談員の活動に最適である。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目	
改革改善を行う	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	☒ 結びついている 地域の連携強化を図り、相談・支援体制を充実することで、ふれあいのある家庭づくりを推進することができる。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
	☒ 妥当である 青少年の健全育成及び非行防止等に繋がることから妥当である
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	☒ 向上余地がある 地域の方に青少年育成に関心をもっていただき、相談等が行いやすい環境を整えることが求められている
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
	☒ 影響有 相談体制が充実しなくなることで、非行・犯罪が増加し、青少年の健全育成が図られなくなるため廃止・休止はできない
効率性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性ありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名
	☒ 余地がない 青少年育成桜川市民会議役員及び学校警察連絡協議会員としても活動しているためすでに連携している
	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
	☒ 削減余地がない 県からの店舗訪問業務補助金が削減されているので、活動、研修等に支障をきたすためこれ以上の削減余地はない
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
☒ 公正・公平である 市内の青少年を対象にしているため公正・公平である	

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	⇨	桜川市民会議及び学芸連としても活動しているため、今後も効果的な活動ができるよう相互に協力・連携していく。																						
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
☐ 終了 ☒ 継続 ☐ 改革改善を行う ☐ 現状維持 ☐ 廃止 ☐ 休止		(複数回答可) ☐ 目的の再設定 ☐ 効率性の改善 ☒ 有効性の改善 ☐ 公平性の改善 ☐ 統廃合ができる ☐ 連携ができる																						
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 青少年相談員の人員の確保が課題となっている。青少年相談員としての活動を広く知ってもらうことが重要になってくる。また、活動内容の見直しや、他市町村の活動事例を参考にしながら青少年への見守りの強化を図る。		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				
(6) 事務事業優先度評価結果																								
成果優先度評価結果		①																						

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価		(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)	
課長確認後の評価		確認欄	
☒ B	A：継続(現状維持) C：終了、廃止、休止 B：継続(改革改善を行う) D：2次評価へ提出	☒ 確認	